

石川県におけるキンキエンゴサクとヤマエンゴサク： 同定のポイント

本多郁夫

Corydalis papilligera and *Corydalis lineariloba* var. *lineariloba* in Ishikawa Prefecture, Japan

Ikuo HONDA

要旨

石川県では、キンキエンゴサクの分布が以前から知られていた。近年確認されたヤマエンゴサクとの最も確実な同定のポイントは、キンキエンゴサクの種子表面には小突起が密生し、ヤマエンゴサクの種子表面は平滑なことである。しかし、種子の観察は意外と困難であることから、種子のない標本では同定に混乱が見られている。そこで、花や葉の形態等での同定のポイントについて詳細に整理した。

キーワード：キンキエンゴサク ヤマエンゴサク

Key words: *Corydalis papilligera*, *Corydalis lineariloba* var. *lineariloba*

はじめに

石川県では、キンキエンゴサク *Corydalis papilligera* Ohwi (図1) の分布が以前から知られていた。近年確認されたヤマエンゴサク *Corydalis lineariloba* Siebold et Zucc. var. *lineariloba* (図2) との最も確実な同定のポイントは、キンキエンゴサクの種子表面には小突起が密生し、ヤマエンゴサクの種子表面は平滑なことである。従来、開花時期にキンキエンゴサクらしいと判断した植物で、種子を観察できたものは、すべて表面に小突起をもつキンキエンゴサクに間違いなかった。ヤマエンゴサクとの違いを明確にするため、いくつかの同定のポイントに関して整理した。

同定のポイント

(1) 花の正面観

福原達人 (2016) の検索表では、

・種子に小突起がある。小葉は楕円形。下側の花卉のへこみのまわりは白く縁どられる

…キンキエンゴサク

・種子は平滑。小葉の形は変化に富む

…ヤマエンゴサク

となっている。

花を正面から見ても、形の上からは両者の違いは認識できないが、キンキエンゴサクでは検索表のように「下側の花卉のへこみのまわりは白く縁どられる」が、上側の花卉も白く縁どられている (図3)。ヤマエンゴサクでは上下共に花卉のへこみのまわりは青く縁どられる (図4)。腊葉標本でその違いを見ることは困難である。

(2) 花の側面観：下側の花卉の隆起

キンキエンゴサクの下側の花卉には、指でつまんだような鋭い隆起がある (図5, 図6)。比較の問題

であるが、ヤマエンゴサクの隆起はそれほど鋭くはない(図7)。

この隆起の形状は、傾向としての違いは認められるが、中間的な場合もあって注意を要する(図8, 図9)。また、腊葉標本では潰れるので、不分明となる。

(3) 花の大きさ

図10の測定値のように、大型の花は間違いなくキンキエンゴサクであるが(図11, 図12), キンキエンゴサクの小型の花がヤマエンゴサクの花と重なる



図1 キンキエンゴサク



図2 ヤマエンゴサク

ことがあるので注意が必要である。

(4) 葉の形状

図13のような葉をみれば、間違いなく同定できるが、キンキエンゴサクでもヤマエンゴサクでも図14, 図15のように小葉の形状には変異が多いので、注意が必要である。

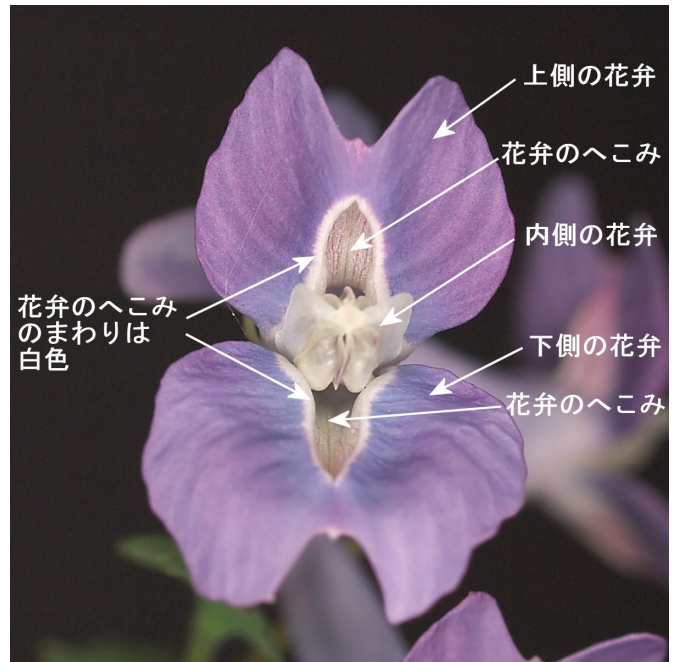


図3 キンキエンゴサク

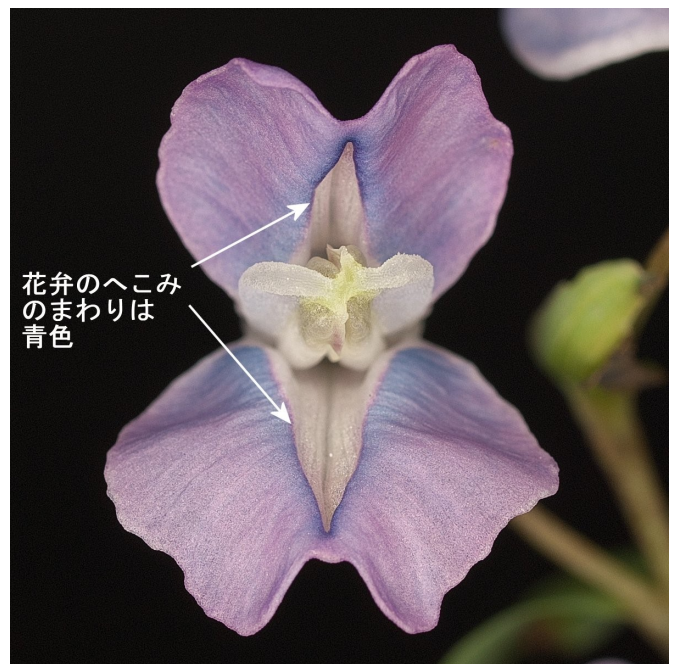


図4 ヤマエンゴサク



図5 キンキエンゴサクの花の側面観



図6 キンキエンゴサクの下側の花卉の隆起



図7 ヤマエンゴサクの花の側面観



図8 キンキエンゴサクの花の側面観

下側の花卉の隆起は鋭いが、図9のヤマエンゴサクに似ている場合もある。スケールはmmである。



図9 ヤマエンゴサクの花の側面観

下側の花弁の隆起はキンキエンゴサクほど鋭くはないが、キンキエンゴサクに似ている場合もある。図8の写真と倍率が同じで、スケールはmmである。

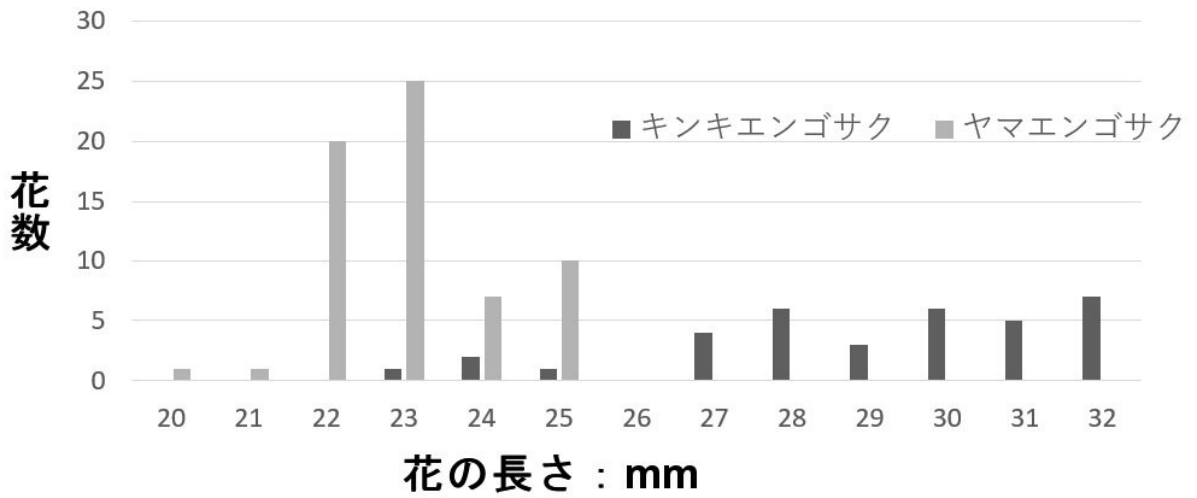


図10 花の長さ と 花数



図11 正面から見た両種の花の大きさの違い



図14 キンキエンゴサクの小葉

小型で丸いものが多い。



図12 側面から見た両種の花の長さの違い



図15 ヤマエンゴサクの小葉

細長いものが多いが、丸みのあるものもある。



図13 石川県での典型的な葉の形状

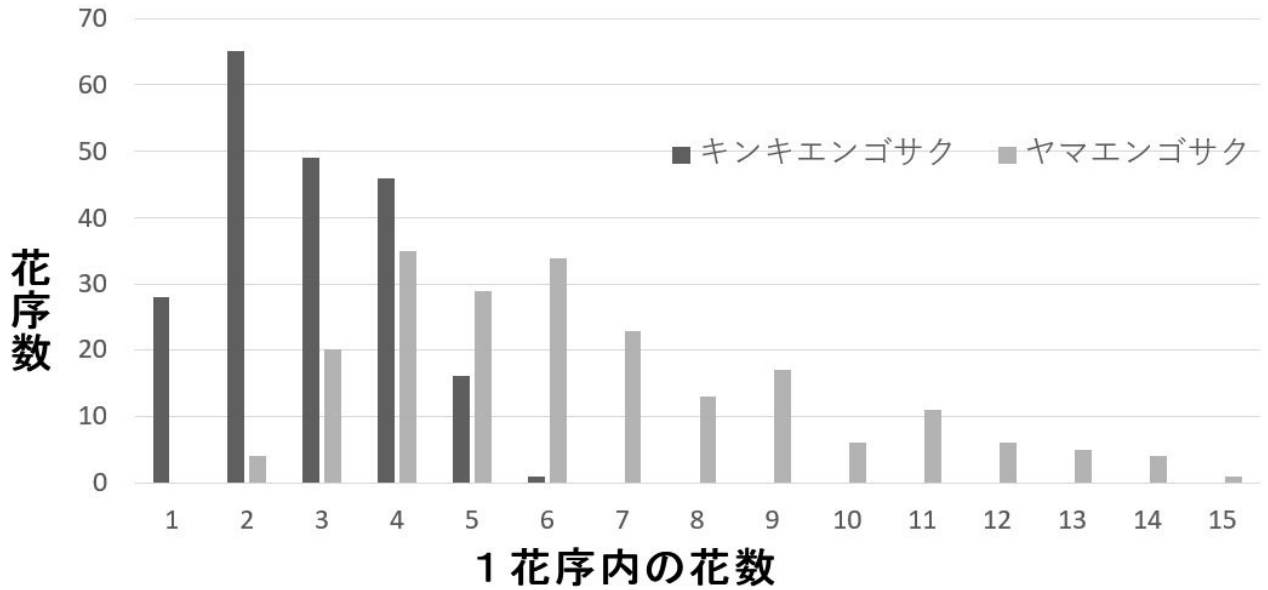


図16 1花序内の花数と花序数

(5) 1花序内の花数

キンキエングサクは花数が少なく，ヤマエングサクでは多いのも特徴ではあるが，両種で重なる部分も多い（図16）。

(6) 果実の形状

キンキエングサクの果実は広卵形で，ヤマエングサクでは狭卵形である（図17）。5月下旬，緑色のまま熟し，自ら裂開する（図18）。



図18 裂開したキンキエングサクの果実



図17 果実

上：キンキエングサク 下：ヤマエングサク

(7) 種子の形状

キンキエングサクの種子表面には肉眼での観察は難しいが，乳頭状の小突起が密生し（図19，図20，図21），ヤマエングサクの種子表面は平滑である（図21，図22，図23）。

ところで次の2点により，種子を見るのは花を見

るより難しい。①果実は緑色のまま熟すので、気づかないうちに種子を散布していることが多く、種子を見かけることがわりと少ない。②結実が進むのに反して地上部の枯死が進むので果実を意識的に探すのであれば見つけることが難しい。しかし、同定の肝であるキンキエンゴサクの種子表面の小突起は幸いなことに、図24のように果実（種子）が未熟のうちから見ることで見ることができるので、完熟前に探索するのも手である。

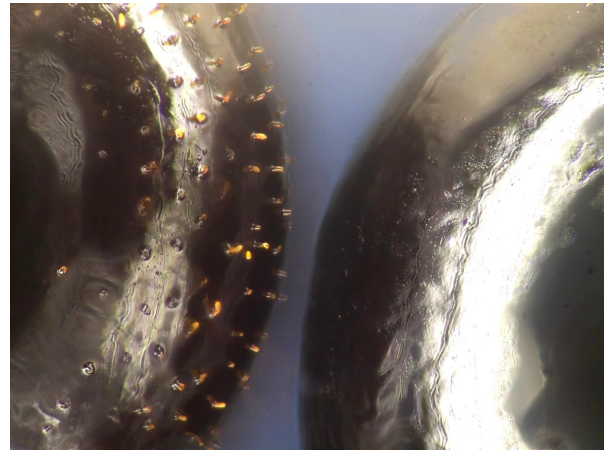


図21 左：キンキエンゴサクの種子 右：ヤマエンゴサクの種子

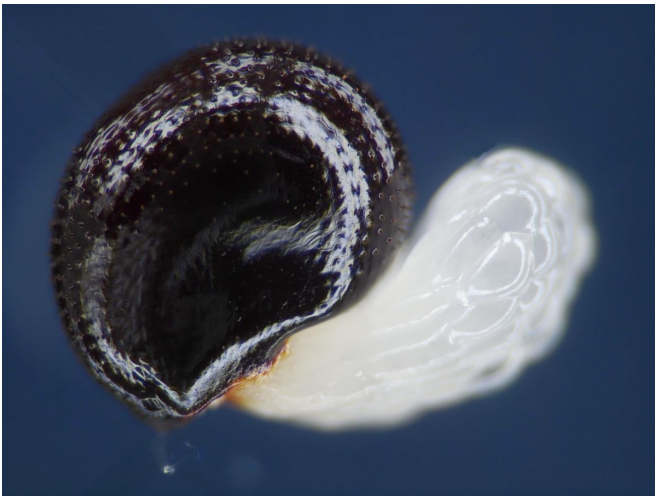


図19 キンキエンゴサクの種子

表面には小突起が密生する。

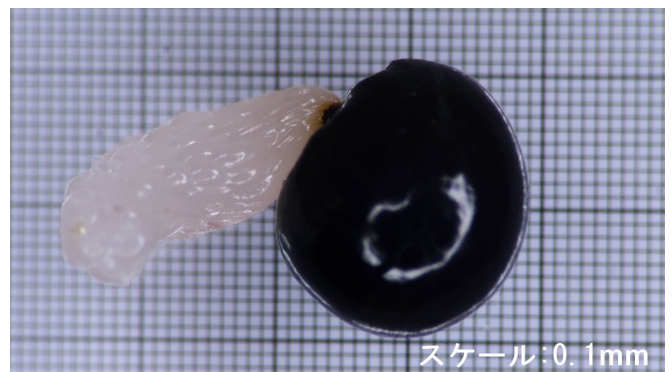


図22 ヤマエンゴサクの種子



図20 キンキエンゴサクの種子の小突起

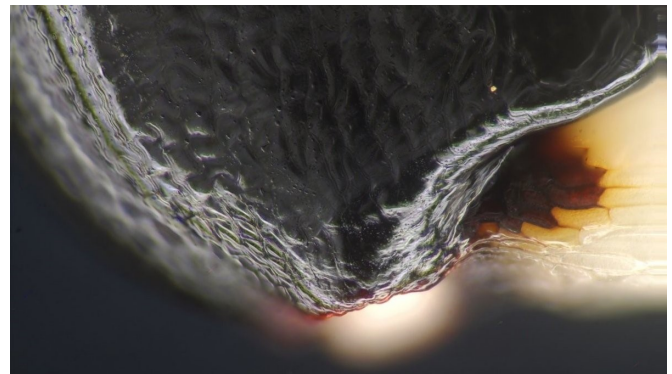


図23 ヤマエンゴサクの種子表面は平滑

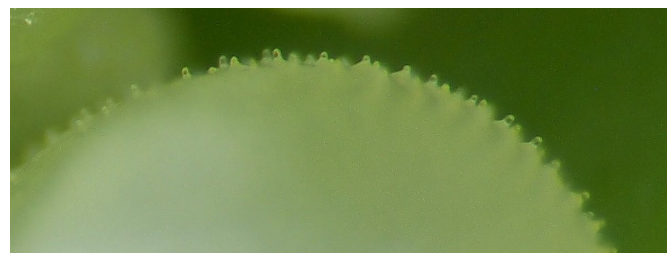


図24 キンキエンゴサクの未熟種子

完熟前の種子でも小突起は見える。

類似の種ヒメエンゴサクについて

ヒメエンゴサク *Corydalis lineariloba* Siebold et Zucc. var. *capillaris* (Makino) Ohwi については、石川県立自然史資料館の標本庫に石川県産のヒメエンゴサクとされる標本が数十点収められているが、その姿はキンキエンゴサクそのものである。もちろん同定の決め手になる種子の標本は添付されていないので、厳密にはキンキエンゴサクとは断定できないのであるが、Akiyama (2006) において「Shikoku and Kyūshū. Endemic」(四国, 九州に固有)と記述されており、かつ福原 (2016) においては、「分類群として扱うには疑問がある」とされていることに鑑みて、すべてキンキエンゴサクと同定すべきものであろう。同時に、Akiyama (2006) の検索表によれば「ヒメエンゴサクの種子は平滑 (smooth)」ともあるので、今後とも、積極的に種子観察をすることが望ましい。因みに、これまで、筆者が野外でキンキエンゴサクと同定しているものはすべて種子表面の小突起を確認したものであって、キンキエンゴサクらしく見えながら種子表面に小突起のなかった例はない。

まとめ

キンキエンゴサクとヤマエンゴサクの違いをいくつかの事項について述べてきたが、あくまでも石川県での実態である。全国的に見れば地域による差(特に葉の形状)もあるであろうから、これを機会に各地でのキンキエンゴサクとヤマエンゴサクの情報を得られるとありがたい。キンキエンゴサクはヤマエンゴサクに比べて分布域が狭いように考えられるが、ヤマエンゴサクと思われていたものが、じつはキンキエンゴサクであったという情報を頂ければ興味深い。同定には種子の小突起を確認することが必須であるが、図24のように未熟の種子でも観察は可能であるので、読者諸賢におかれては積極的に観察に挑戦して頂ければ幸いである。

引用文献

Akiyama, S. (2006). PAPAVERACEAE. Iwatsuki, K., Boufford, D. E. & Ohba, H. (eds.), Flora of Japan, Volume IIa: 448, Kodansha, Tokyo.

福原達人 (2016) . ケシ科. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編), 改訂新版日本の野生植物 2 : 104, 平凡社, 東京.